

平成30年度

◎持ち物の連絡について

日常の保育の遊びの中で、必要となった材料や道具・服装などを家庭から準備してくる際に、子どもに伝えるだけでなく、家庭にも詳しく教えてほしいというご意見をいただきました。

保育の中では遊びを広げていく中で、年齢が上げるにつれて（特に年中～年長児）、子ども達に判断を任せる場面がよくあります。その中で出た持ち物についても、あえて保育者からご家庭にお伝えせず、子ども自身から「～をするから、今度〇〇を持っていくんだ」「明日は～をするから、服は△△にする」など伝えられるように促すことがあります。

それは、子ども達が自ら主体となって遊びを作り出していく経験を、より豊かにするための関わりでもあります。

ご家庭におかれましては、経緯がわからず迷われるときもあると思いますが、ぜひお子さんが何かを伝えたがっている時はお話を聞いてあげてください。一度では伝わらないことも「どうしたらわかってもらえるかな？」と考えるきっかけになりますので、「もう少し詳しく教えてくれるとうれしいな。」「～はどうすればいいの？」など受け止めて、やり取りをしていただくと嬉しいです。そして、そんなご家庭での様子を園の方にもお伝えいただきながら、園ではさらに一人ひとりに合った関わりを考えていきたいと思っております。

時間はかかるかもしれませんが、大人が先回りせず、子ども達がひとつひとつ進めていく過程を大事にしていきたいと思っております。こういった関わりが後に、コミュニケーション力や問題解決力などに繋がっていくはずです。ぜひご理解ご協力を宜しくお願い致します。

◎育ちを楽しむ会で使用する楽器について

今年度の育ちを楽しむ会では、年長児が合奏を披露しました。その中で、本物の楽器を使う子と手作り楽器を使う子がいたため、全員に本物の楽器を使わせてあげてほしいというご意見をいただきました。

この件につきましては、会場にいらしゃった皆様に子ども達の日常の様子、発表に至るまでの様子を十分にお伝えできていなかったために、ご心配をおかけしてしまいました。

年長児では、運動会後から様々な手作り楽器を作って遊ぶ姿がありました。その一方で、毎年の年長児の様子を見ている子ども達は、「そだちを楽しむ会」では自分達も本物の楽器で演奏してみたいという子もおり、両方のやりたい思いを尊重して関わってきました。どちらかに揃えるという案もありましたが、一人ひとりの「やりたい」「この姿を見てほしい」という気持ちを確認しながら、最終的には子ども達が納得して選んだ形が当日の様子になりました。

今回こうしたご意見をいただき、あらためてすみよし愛児園の保護者の皆様が、ご自身のお子さんのことだけでなく、一緒に過ごす多くの子ども達のことを見守り、応援して下さっていることを実感し、心から感謝しております。一人ひとりの育ちを今後もみんなで喜び合えるよう、これからの情報発信の仕方なども検討していきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

◎駐車場の使い方について

駐車場で子どもが一人で園の方から走ってきたり、一人で車に乗り込んだりする姿があり、危険を感じるが保護者同士はおしゃべりをしていて子どもたちを見ていないことも多く、いつか事故が起きるのではないかと心配ですというご意見をいただきました。

園児の飛び出し事故や送迎時の事故は全国的に報告されており後をたちません。すみよし愛児園では過去に大きな事故は起きておりませんが、これは当たり前ではありません。

駐車場の使い方につきましては、定期的にお伝えさせていただいておりますが、再度皆様には使用の仕方や歩き方を確認していただき、悲しい事故が起こらないように十分注意していただきたいと思います。ルールが守られない場合や事故が発生した場合は駐車場の使用ができなくなることもあります。是非ご協力をよろしく願います。ご意見ありがとうございました。

◎台風で倒れた木への対応について

駐車場から園におかう途中で台風で倒れた桜の木がそのままの状態に置いてあるが、早く片付けてほしいというご意見をいただきました。

業者の方に頼み処理することも可能ですが、こんなに長い年月を生きてきた木をただ捨ててしまうのではなく、この木も子どもたちにとっての育ちや気づき、学びの一つになればと考え、木の周りに囲いをし、その後の様子を観察できるようにしました。

子どもたちも倒れた木を見たときはびっくりしていました。こんな大きな木が倒れてしまう台風や風についても驚いたり興味を持ったりする姿もありました。徐々に葉が枯れてきているのを見て、その変化に気づいている子もいました。四季の移り変わりとは違う自然の変化を感じていたと思います。

その後、この桜の木は庭師の方と一緒に年長児が小枝を切り落とし、下に支えを入れ子どもたちが登っても倒れないようにしていただきました。

この桜の木が子どもたちの側にあることで、命や自然を感じ、そこから広がる子どもたちの世界や言葉をこれからも保育の中に生かしていきたいと思っていますので、ぜひご理解ご協力を宜しく願います。